

南東北インターハイ 派遣審判員研修会を開催

6月3日にみやぎ生協めぐみのサッカー場を会場に、第2回南東北インターハイ派遣審判員を開催しました。

今回の研修会は①高校総体宮城県大会の試合を用いての試合観戦 ②チュータリング(試合中のPK時の監視と役割、選手交代時の手続き) ③高校総体の試合を担当した審判員を交えての映像分析の3つの構成で実施しました。

来月に控えた南東北インターハイに向けて有意義な研修会が行えました事を報告いたします。



平間 亮 3級インストラクター コメント

私がJFAから受けている指導や、Jリーグでの審判活動の経験をもとに、審判員の皆さんへアドバイスをさせていただきました。撮影した試合のシーンで、オフサイドか否か(相手競技者を妨害したと考えるかどうか)を皆さんへ質問しました。予想外なことに、意見が分かれてしまいましたが、「オフサイドではない」と判断すべきシーンでした。派遣されるインターハイで、「さすが宮城FAの審判員、皆一貫した理解を持ち、副審や第4の審判員の任務を果たしてくれる!安心して任せられる!」となってほしいと強く思っています。大会までの残りの期間、研修会の時だけでなく、普段担当する試合や個人のトレーニングでも、高い志を持って臨んでほしいと思います。Made in Miyagi Referees!!!

羽田 周平 2級審判員 コメント

この度このような機会をいただきありがとうございました。インストラクターを始め、多くの2級の方々と有意義なディスカッションでき、貴重な機会となったと思います。客観的な視点から様々なご意見をいただき、自分だけではわからない細部にまで目を向けることが大切であることを痛感しました。これからの審判活動に生かしていきたいと思えます。また、普段は見ることのない自分の姿を映像を通してみることによって、思っていたのとは違う自分を目の当たりにし、「もっと上手になりたい」という欲求が強まりました。これからさらに研鑽を積んでいきたいと思えます。

益子 怜 2級審判員 コメント

インターハイ。自分が2年前にいた舞台に、今度は審判の側から立てるといことで、とても楽しみでした。今回は夏のインターハイ本選に向けた研修会を兼ねており、ビデオ撮影があるため、いつもより「見られている」ことを意識して臨みました。

試合後の研修会では、試合中に気になったシーンや良かった動きなどを、実際に自分がレフリングしている映像を見ながら解説していただきました。そのため、どこがポイントだったのか、どの動きがどのように良かったのか、1つ1つ具体的に整理でき、勉強になりました。また、自分の姿が周りからどのように見られているのかも確認でき、立ち姿勢やフラッグの持ち方にも、一層の注意を払わなければならないと感じました。

夏のインターハイに向けて、非常に有意義な研修会となりました。ありがとうございました。